

校長室だより
NO. 12
平成30年6月4日

すべては光る

梅園小学校長
たか すりょうへい
高須 亮平

子どもを大切にすることは ～ 毛涯章平『肩車にのって』より

子どもを大切にすることとは、よく学校教育で話題となる言葉です。しかし、その意味は、とらえ方により様々で、曖昧さを含む主観的な言葉でもあります。そのため、「自分は子どもを大切にしている」と思って行動していても、それぞれに違いが出てきたりします。さて、具体的にこの言葉は子どもに対してどうすることなのでしょう。

ここに1つの指針となるものがあります。毛涯章平先生（1923-2016）の著書『肩車にのって』の中に「わが教師十戒」として表されています。



1年・6年のペアでの梅の収穫

「わが教師十戒」

- 一 子どもを、こばかにするな。教師は、無意識のうちに子どもを目下の者と見てしまう。子どもは一個の人格として対等である。
- 二 規則や権威で、子どもを四方から塞いでしまうな。必ず一方を開けてやれ。さもないと、子どもの心が窒息し、枯渇する。
- 三 近くに来て、自分を取り巻く子たちの、その輪の外にいる子に目をやれ。
- 四 ほめることばも、しかることばも、真の「愛語」であれ。「愛語」は、必ず子ども心にしみる。 ※「愛語」…相手の身を思いやって語ることば
- 五 暇をつくって、子どもと遊んでやれ。そこに、本当の子どもが見えてくる。
- 六 成果を急ぐな。裏切られても、なお、信じて待て。教育は根くらべである。
- 七 教師の力以上には、子どもは伸びない。精進をおこたるな。
- 八 教師は「清明」の心を失うな。ときには、ほっとする笑いと、安堵の気持ちを起こさせる心やりを忘れるな。不機嫌、無愛想は子どもの心を暗くする。 ※「清明」…自然で明るく、ゆったりすること
- 九 子どもに、素直にあやまれる教師であれ。過ちは、こちらにもある。
- 十 外傷は赤チンで治る。教師の与えた心の傷は、どうやって治すつもりか。

毛涯章平先生は、長野県で小中学校長、下伊那郡豊丘村教育委員長を歴任された方で、教育者と呼ぶにふさわしい方です。私は、先生が著された数冊の教育書の中でしかその教育論にふれていませんが、それらを読み進める中で、子どもに対する温かい眼差し、厳しい中にも包み込むような優しさを文の端々から感じることができました。ある意味で、一流のエッセイストであり、詩人でもあるように思いました。

そのため、教師として学ぶ点が多く、子どもと接し、子どもを大切に育てていく上でその考え方はまさに教育の指針となります。そして、そのエッセンスがこの「わが

教師十戒」に記されているようです。子どもを大切に育てることについては、教師も保護者も共通していますので、「教師」という言葉を除いて、子どもについての「わが十戒」としても十分読めるような内容でもあると思います。

この「十戒」の10の言葉は、教育において貴重な内容ばかりであり、10すべて大切に思います。その中で「1つ」と言いますと、やはり1番目のものが最も重要で気になりました。

「子どもを、こばかにするな。

教師は、無意識のうちに子どもを目下の者と見てしまう。

子どもは一個の人格として対等である。」

なぜ、これが最も重要になるかと言いますと、2番目以降のすべてに通じる内容となっていると思うからです。だからこそ「わが教師十戒」の最初にあげられているのでしょう。特に、「子どもは一個の人格として対等



1年生に読み聞かせをする6年生

である」は、教育をする者の基本であると痛感します。子どもは一人の人間であることは言うまでもありません。しかし、その考えや行動の未熟さから、大人はつい軽く考えてしまいがちになり、横柄になったりすることがあります。教育を受ける者と教育を授ける者とを区別し、授ける者が優位に立つと考えるからでしょうか。しかし、そのような扱いを受ければ、子どもであってもものごとを考える力は制限され、その結果、子どもは人任せになったり、無責任な行動をとったりする要因になります。そう考えると、大人が子どもをよくない方向へ導いているようにも思えます。そもそも、教育は子どもの姿で評価するはずなのに、そうっていないのです。

やはり、子どもの人格を大人と全く同じようにとらえて認めることが当たり前のようにできなければなりません。教育に当たる上では、子どもは未熟な存在ということは言うまでもありませんが、それをふまえた上で、一人の大人と全く同じように認めて対応できれば、きっと子どもは自分の役割を自覚したり、置かれた中で責任をもったりするようになってくるのではないのでしょうか。これは、よく話題にします「子ども主体の教育」につながるものです。まさに、子どもは「大人が育てたように育つ」のです。このことを肝に銘じて教育に当たらなければならないと思います。

1年生の学校探検が始まりました

毎年恒例になっています1年生の学校探検が始まりました。校長室にも楽しそうに訪れてくれました。このような1年生と接することはとてもうれしいことです。入るや否やソファがあることに気付く子、歴代の校長先生の写真を見てひげのあることを発見した子、水泳部の準優勝楯に関心を示す子、私がどんな仕事をしているか聞く子など、すべてのことに興味津々でした。そして、部



校長室に訪れた1年生

屋で発見したものを絵や言葉で一生懸命に表していました。これからこの発見を学級の友達と共有し合う中で、多くを学んでいくことと思います。たのしみですね。